

# 生ごみ堆肥の作り方



## ～コンポスト容器で生ごみのリサイクル～

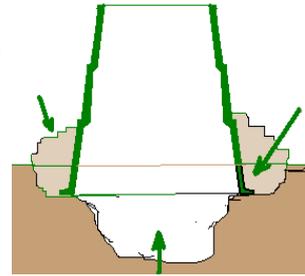
コンポスト容器の使用方法は様々あります。ここでは一例をご紹介します。

### ① 設置場所と設置方法

コンポスト容器は、なるべく日当たり、水はけ、風通しのよい場所を選びましょう！

毎日使うものですから、台所に近い場所も大切な条件です。

掘った土は容器の周りにかぶせておきます。その後で生ゴミにかぶせる土に使用します。



深く掘ると生ゴミがたくさん入ります。

10cm程度、埋めておく。犬・猫のほじくり、風などによる転倒を防ぐため、容器の周りにしっかりと土をかぶせて踏み固めます。

### ② 生ゴミを投入する前に下準備（床を作る）

容器の底に枯れ葉、枯れ草、ワラくず、米ぬかなどを混ぜて20cm程度敷き床を作ります。こうしておくで生ゴミの発酵分解が促進されます。コンポスト容器の1/3程度入れる方もいます。



### ③ 生ゴミの発酵と減量

土中微生物（バクテリア等）の働きで生ゴミは発酵分解が進みます。毎日どんどん生ゴミを入れても一杯になってきません。しかし、生ゴミの発酵分解を早めるためには、週1,2回スコップで中をかき回し、酸素を入れましょう。

この時コンポスト容器の周りの乾いた土をスコップに一杯程度かぶせましょう。かぶせる前に枯れ葉、枯れ草、細かい紙くず（シュレッダー紙など）を積極的にコンポスト容器に入れましょう。また、発酵促進剤や米ぬかを少しまいておくとなお良いでしょう。



水分は、土中に吸収されます。

### ④ 堆肥として使う。（コンポスト容器が2/3程度になったら）

コンポスト容器を2個使用する場合は、2/3程度たったら一番上に土を2～3センチ程度入れ、そのまま4～5ヶ月放置します。（時々スコップで攪拌します。）フタを取って強い臭いがなくなっていれば、コンポスト容器を抜き取り、その場で適当な高さに崩して1ヶ月に1～2度切り返しを続け完熟させます。抜き出した後、強い臭いがする場合は更にナイロン袋などで覆い（水分を入れない。）3～4ヶ月かけて切り返しを続けて完熟させます。



切り返しも忘れずに。②の要領で床を作る。

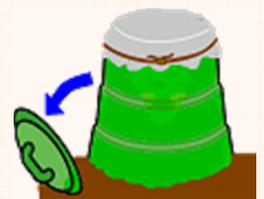
コンポスト容器1個の場合は、いっぱいになればコンポスト容器を抜き出し、上部の発酵していない生ゴミを移し替えたコンポスト容器に再投入します。堆肥化しつつある生ゴミは、ナイロン袋などで覆い、8～10ヶ月かけて月に1～2度切り返しを続け、十分完熟させます。（※ コンポスト容器は無償で2個貸与できます。）

完熟した生ゴミ堆肥は、最初は試し使用をして下さい。生ゴミ堆肥でガーデニングや野菜作りをスタートしましょう。



# ポイント

- 容器は、日当たり、水はけ、風通しのよいところに置く。コンポストは自然に水分が抜けるようにしないと腐敗菌で土が腐ります。
- 生ゴミの水分を切ることがポイント！生ゴミは水分が80%といわれます。投入は、一晩台所の隅で水切りした後で行うようにしましょう。堆肥化は、含水率60%(ゴミを握ったときに手に水分を感じる程度)が好気発酵に最適といわれます。好気発酵がきちんとできれば堆肥温度は60度以上になり、虫も死滅して発生しません。
- 生ゴミ投入後は土を入れてよくかき混ぜる。「かき混ぜる」のは「空気を混ぜる」ということです。乾いた土を入れて、どんどんかき混ぜて空気を入れて下さい。
- コンポスト容器内の水分を外に逃がしましょう。  
天気の良い日にはふたを開けて、風と太陽の光をいっぱい入れる。  
(このとき、入口に網をかぶせるなどして、虫の侵入に注意。)
- 完熟堆肥の見分け方：完熟すると黒茶色になり生ゴミは分解され残っていません。悪臭もしません。ミミズなどが盛んに活動し出します。強いアンモニア臭や腐ったような臭いがする場合は、成熟が不十分です。
- 悪臭対策：発酵が進むと炭素（微生物のエサ）が少なくなり、微生物が窒素と結びついてアンモニアを作ります。これが悪臭の元になります。炭素が多く窒素分の少ない枯れ葉、枯れ草、段ボール（細かい紙くず等）などや発酵促進剤を入れることで微生物のエサを補給し、水分調整もでき悪臭を緩和することができます。このときもコンポスト容器内をかき回しておきます。乾いた土を入れても水分調整ができ悪臭の緩和に効果があります。
- むし対策：コンポスト容器内は水分調整をしてもどうしてもジメジメします。虫たちの好むところです。こまめにかき回し（空気を入れる）、乾いた土や枯れ葉、枯れ草、紙くずなどを入れ湿り気を少なくすることで発生を防げます。また、石灰を少量投入すると殺虫効果があります。
- スイカやメロンの皮は細かくする。：生ゴミは、小さいほど発酵分解がしやすくなります。スイカやメロンの皮は水分が多いので細かく切って入れると発酵分解が早くなります。みかんの皮、玉ねぎの皮は発酵分解に時間が掛かります。
- 魚のハラワタなどは、米ぬかをまぶして（唐揚げ作る時に粉をつけるような感じ）からコンポストに入れると臭いや虫が発生しづらくなります。



**生ゴミの堆肥化には様々な方法があります。**

**自分流の堆肥の作り方を見つけましょう!**

**有田川町役場 環境衛生課**